

日本の中心でみんなとつながって  
素直に感謝をサさげよう

～キミとボクとドキドキミサ～



2009年  
2月22日

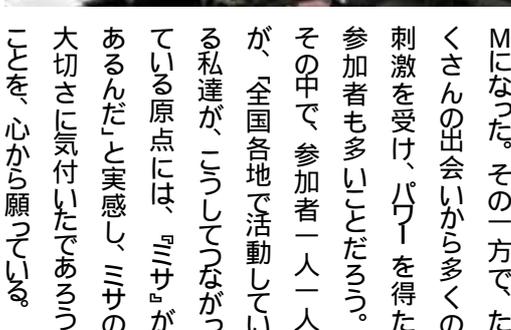
二〇〇八年九月  
十三日十四日、ネ  
ットワークミーティ  
ング(以下NWM)  
が、四年ぶりに東  
京で開催された。

委員長・島村望を中心に、ミ  
ーティングが始まったのは、開催  
の十一ヶ月前となる二〇〇七年  
十月だった。最初に難航したの  
が、テーマ決め。東京らしさを出  
したい。深く分かち合いたい。青  
年らしさを大事にしたい。など、  
四十名近いスタッフのそれぞれの  
想いを、どのように上手く織り  
込むか：考えた抜いた末が、こ  
の史上最長のキャッチフレーズだ  
った。色々な考えの人の様々な  
思いが混在している街「東京」を  
暗に示すフレーズとなった。

その後も地域別ミーティングを  
実施したり、分宿スタイルに踏み  
切るなど、斬新なアイデアが  
取り込まれていく中で、スタッフ  
の心に常に浮かんでいるのは「参  
加者に、ミサについて今一度振り  
返ってほしい」という想いだった。  
普段何気なく受けているミサ  
がどんなに大切なものであるか  
気付いてほしい。という一つの信  
念が、スタッフを突き動かした。

参加者に、ミサに「参加  
する」姿勢を体感して欲し  
かったから、「手作りミサ」  
に重きを置いた。ただ、「こ  
の手作りミサが特別な  
ではなく、普段のミサも同  
じ」ということを伝えるの  
は難しく、パートに分ける  
ことで、ミサがバフバフに  
なることも危惧された。  
しかし本番当日ミサが  
終わった大聖堂を包むそ  
の空気に、何かが伝わった  
と確信した。

史上最多の人数にタイト  
なスケジュール分宿のため  
の移動と、体力勝負のNWM  
になった。その一方で、た  
くさんの出会いから多くの  
刺激を受け、パワーを得た  
参加者も多いことだろう。  
その中で、参加者一人一人  
が、「全国各地で活動してい  
る私達が、一つとしてながっ  
ている原点には、『ミサ』が  
あるんだ」と実感し、ミサの  
大切さに気付いたのである。こ  
こを、心から願っている。



**ネットワークミーティング (NWM) とは?**  
年に2回開催される、カトリックの青年と、青年の活動を支えている信徒・修道者・司祭が自由に集う、  
情報交換と交流の場です。毎回、開催地はカトリック青年連絡協議会とあわせて設定され、開催地の青年  
と連絡協議会のメンバーでネットワークミーティング実行委員会を立ち上げ、準備が進められています。

**今回の紙面**

1面  
NWM in 東京  
開催!!

2面  
ミサからはじまる  
ミステリー  
世界に一つだけの  
ミサへ  
離れていても  
心は一つ  
素直に感謝を  
捧げよう

3面  
手作りミサ  
十二班十二色

4面  
皆様からの声  
\*感想  
\*ミサに対して  
\*これからの私  
これからの教会  
\*メッセージ

次回NWMのお知らせ

# ミサからはじまる

## ミステリー

当日は、祭壇の四方を囲むスタイルでの開会ミサ。オープニングから始まった。新しい人達との出会い、懐かしい仲間との再会に沸き立つ会場も、一瞬にして荘厳な祈りの雰囲気にも包まれた。



Opening Mass

続く、委員長 & 副委員長コンビによるオリエンテーション、猛獣狩り「改め、「観光」では、参加者のテンションも絶好調。神聖だったケルソールも、次第に熱気の渦に巻き込まれていった。

東京観光 行こ～よ  
東京タワーだって  
登れるし  
Suica だって持ってるし



ここからのプログラムはミサへと一直線。「あなたにとってミサってどんな時間？」「あなたがミサに「与りたい」と思いつときはどんな時？」などの質問が飛び交った「キミとボクとドキドキQUESTION」では、体を動かしながら、一人一人が自分自身の心の中にある「ミサへの想いを再確認した。



# 世界に一つだけのミサへ

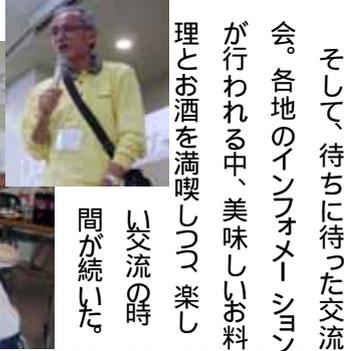
手作りミサの班分けは希望制。そこで十二班それぞれの担当スタッフが、激しいアピールがミサには無くてはならない大切な要素。参加者は皆、真剣に聞き入り、どんな方向から手作りミサにアプローチしていったか、真剣に考えていた。



参加者全員が思い思いの班に分かれると、それぞれで分かち合いの時間が設けられた。なぜこの班を選んだのか。普段のミサではどんなことを感じているか。「感謝を捧げる」ということ？など、熱いトークに花が咲く、貴重な時間となった。



夕の祈りは、東京カテドラルが「聖マリア大聖堂」であること、また、テーマにも掲げた「素直」といつ生き方を、真に実践したマリア様のことを想いお告げの祈りを唱えた。そして、待ちに待った交流



# 離れていても

## 心は一つ

交流会も終盤に差し掛かると、荷物をまとめ始める参加者の姿が目立つようになる。史上初となる、「分宿」の始まりだ。参加者二二〇人余が、都内の五教会(潮見、成城、関口、初台、目黒)に分散して宿泊する。



なかなか大変で、到着後に銭湯へ行き、落ち着いた時には深夜を回っている教会も少なくなかった。体力的には厳しいものとなったが、タイトなスケジュールを刻む「都会らしさ」を体感できた。各教会では、夜な夜な少人数での交流を楽しむ姿も見られた。

# 素直に感謝を捧げる

夜、それぞれの宿泊教会へと派遣された参加者は、翌朝再び東京カテドラルに集結した。お迎え下さった幸田司教様と共に朝食を終え、早速手作りミサの班に分かれ、準備が進められた。引き続き、分かち合いで想いを深める班、具体的な作業を始めている班、体を動かしての練習を重ねる班など様々であったが、全ての参加者に共通しているのは、ミサに向かう、その心だった。そして遂に、二二七人による手作りミサの幕開け。こうしてNWMi東京は最高のフィナーレを迎えた。



## 心構え・入堂班

ミサ前の心構えは非常に重要であるということから、ミサに与る際の心構えについて分かち合った。入堂の時には全員で目を瞑り、手をつないで心を静めた。そして、幸田司教様の握手を受けた人から手を高く掲げ、全員に握手の波が行き渡ると共にミサが始まった。



## 第一朗読班

出エジプト記の3章1～6節を題材に、インタビュー



形式の寸劇を披露した。モーセや神様など、様々な観点から見た「モーセの召命」を解説していく中、芝役が赤レンジャー姿で登場するなどコミカルな内容で、聖堂中を笑いの渦に巻き込んだ。

## 第二朗読班

聖書箇所は、コリント人への手紙 二の4章16～18節。初代教会時代までさかのぼり、当時のコリントの教会での様子を再現した。落胆せずに声を大きく、使徒たちの想いを響かせる勇気ももった。



## 共同祈願班

普段感じていること、最近祈りたいと思っていることを分かち合い、思い思いの共同祈願を、心を込めて作成した。



## 福音班

「福音」= Good News という根本に立ち返り、イエス様の教えの神髄を探った。福音朗読の後には、シスターも交えた劇で会場を沸かせ、また、アンパンマンの例を使って、自己犠牲の心を視覚的に示した。



## 奉納（ぶどう酒）班

東京カテドラルから歩いて約30分の御受難会修道院を訪れ、ぶどう酒を手に入れるというミッションを果たした。御受難会の神父様にご協力いただき、御血、つまりは受難について黙想を行った。ミサでは無事ぶどう酒を奉納することができた。



# 手作りミサ★十二班十二色

## 奉納（パン）班

毎回のミサの聖変化で、イエス様の御体となるパンを、小麦粉と水から本格的に手作りした。全員分のパンを焼くのはなかなかの重労働ではあったが、心を込めて一枚一枚を丁寧に作った。



## 聖歌隊

”Jesus Christ You are My Life” を振り付きで練習し、奉納の歌として披露した。ソロパートも用意し気合は十分。大聖堂に響く歌声は、まるで天使のようで、他の参加者たちの感動と涙を誘った。



## 十字架班

イエスの受難の象徴としての十字架を、祭壇に飾るために華やかに彩った。大きな十字架の中には、参加者全員がお土産として持って帰れるよう、プラバン製のミニ十字架が詰め込まれているサプライズ付きだった。



## 侍者団

念入りな打ち合わせと、練習を繰り返して、総勢20名で祭壇奉仕を努めた。一人が必ず一つは仕事を受け持つように上手く振り分け、一人一人が責任を持ってミサに臨んだ。縁の下の力持的存在である侍者達の奉仕の心が光っていた。



## 祭壇班



そこにあるのが当たり前すぎて、普段あまり考えることの無い「祭壇」の意味。祭壇の大切さを考えながら、イエスの食卓の原点である「最後の晩餐」の絵画を、ちぎり絵で作って祭壇に飾った。

## 祭具・カズラ班

手作りミサで幸田司教様がお召しになるカズラに、刺繍を施した。表はモチーフの東京タワーからハートに見立てたパワーが発信されている様子。裏は福音で読まれたエマオの箇所をイメージして、聖書、カリス、ぶどう、御聖体を、十字架のもとに描いた。



# 皆様からの声

NWM開催からちょうど1ヶ月が経過した10月13日に、アンケート「217 人みんなに声を届けよう 13th Night」を実施しました。答えてくださった皆さん、本当にありがとうございました！！

日本にこんなにたくさんのカトリック青年がいることにびっくり。/自分が決して1人では無いことを実感することができた。/初めて会った人達とすぐに仲良くなって、とても温かくて楽しかった(\*^\_^\*) /これだけの若者達が居るのかと思うと、とても心強い。/今までミサはどちらかというが無機質なイメージだったけど、人のぬくもりを感じるミサを経験できた。

感想 日本教会の今と  
未来に希望が湧いた。 若者らしいバカっぽさと情熱が絶妙なNWMでした！ノドキドキミサは終始泣いてました。東京パワーは熱い！ノイエスが中心の集まりという意識が感じられた。/なかなかハードで『疲れた』って部分が大きい。/分かち合いではなかなか素直に話すことができなかった。/スケジュールがあわただしかった。/分宿は残念だった。 /初対面の人とコミュニケーションがとりづらい環境だった。/遠方からきた参加者のことをもっと考えてほしい。/もっといろんな人と関わりたかった。

ミサに与るたびにNWMを思い出し、ミサって大切なもので、毎回のミサは新鮮なものだと思えるようになった。/以前より感謝の気持ちでミサにあずかれるようになった。/ひとつひとつの言葉の意味を深く考えながら与るようになった。/ミサを受ける時の心構えや、気持ち！ 特に大きな変はなし。これから何か変わるといいな /ミサのことをもっと知りたいと思うようになった。/今まさにミサを作っている皆のうちの一人だと感じるようになった。/ミサに参加すると日本中の皆と繋がっている事を感じるようになった。/ミサは自分が受けたい受けたくないという気持ちとは関係なしに、私たちが呼んでいるんだ、と感じた。/何か役目が無かったとしても1週間の全てをささげるという気持ちがあうまれた。

ミサに対して、何か変わった？

教会活動に積極的に関わっているみんなの姿を見て、私も頑張ろうと思った。/小教区でも侍者の練習などやってみようと思います。/自分が経験したことなどを少しでも多くの人に伝えることができたらいいと思う。/東京のようにもっと活発にしていきたい。/自分の教会と外部をつなぐような役目になりたい。/待っているだけじゃなく、他の教区に働きかけていこうと思った。/テーマソング「あなたがいるから」を、自分の教会、自分の教区でも歌っていききたい。

これからの私  
これからの教会

子供たちとミサを手作りしたい。/新しい方法(分宿・分科会方式など)にチャレンジする姿勢を学んだ。/遊びで集まるだけでなく、教義を学ぶ集いをやりたい。/超教区ブログを起ち上げて、週に1度の持ち回りで更新する情報交換。教区対抗イベント。イベントも大切だけど『会いたい、会うとき、会える』そんな繋がりが出来ればいい。/CSTをもっと大きな集まりにしたい。/また大規模な人数で集まりたい。/これからは小教区をまず大事にしたい。/ワールドユースデーの本大会を日本で。/超教区バンドフェスティバル/全国の青年で何かボランティア活動を行っている人や興味がある人達と情報交換をしたい。

## 今後のNWMのお知らせ

次回 第16回 NWM in 京都  
テーマ「また会いましょう」

ともに笑い、祈り、語り合い、体験や気持ちを共有しながら、つながりを深めていく。そして、最後に心から言い合おう。「また会いましょう」と。

【日時】2009年2月21日(土)~ 22日(日)

【場所】カトリック野外礼拝センター

次々回 第17回 NWM in 広島

【日時】2009年9月20日(日)~ 21日(祝)

【場所】岡山県青少年教育センター「<sup>しづたに</sup>開谷学校」

HP <http://hiroshima.catholic.jp/~hsjc>

(カトリック広島司教区青少年情報センター)

みんなありがとう。みんなと過ごせたひとは最高でした。/みんなやあの素敵なしと時を思い出すと胸がきゅんてします。/今回の出会いが次へとつながっていきますように。/お恵みは本当に大きくて、私一人では抱えきれないほど。メッセージ /一人ひとりともっと分かち合いたかった!!いつかまた逢えるよね!?ノイエスさまは、わたしたちのつながりの中に、共にいます。/皆さんのパワー頂きました! /あの日々を生かして地元の教会の活動とかがんばっていきたいです! /残念ながら話すことが出来なかった人達、京都でね /元気に羽ばたこう!

作成者：第15回 NWM in 東京実行委員会

HP [http://www.geocities.jp/nwm\\_in\\_tokyo/](http://www.geocities.jp/nwm_in_tokyo/)

Mail [nwm\\_in\\_tokyo@yahoo.co.jp](mailto:nwm_in_tokyo@yahoo.co.jp)

発行元：カトリック青年連絡協議会

HP <http://www.catholicyouth.jp/>

Mail [info@catholicyouth.jp](mailto:info@catholicyouth.jp)

発行日：2009年2月22日